

正副議長就任記者会見（令和7年2月定例会）

日時：令和7年3月19日（水）13：45～14：05

場所：観光スポーツ文教警察委員会室

福羅議長



大西副議長



（南海放送：幹事社）

定刻になりましたので、正副議長会見を始めます。なお、議長は次の公務がありますので、会見の時間は14時5分までとさせていただきます。まず初めに福羅議長からご挨拶をお願いします。

（議長）

はい。県議会議長にご推挙いただきました、福羅浩一と申します。今治市・越智郡選挙区選出で5期目、56歳でございます。適齢期なのかどうなのか分かりませんが、皆さん方にご推挙をいただいたことをしっかりと受けとめて、今後の議会活動をしっかりと、大西副議長ともども頑張ってまいりたい、そういう決意で今回臨ませていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

（南海放送：幹事社）

ありがとうございます。続いて、大西副議長からご挨拶をお願いいたします。

（副議長）

はい。この度、議員各位のご推挙をいただきまして、副議長に就任させていただくことになりました、大西誠と申します。伊予市選挙区選出、4期目でございます。昭和40年生まれ本年をもちまして還暦60歳を迎えます。福羅議長の補佐役としまして、スムーズな議会運営に誠意頑張ってまいりたいと思っております。以上でございます。

（南海放送：幹事社）

ありがとうございます。続いて、代表質問に移ります。

今回から親子傍聴室を導入するなど、開かれた県議会を目指して取り組みを進めてい

らっしゃるかと思います。県民の認知度向上やさらに開かれた県議会を目指すなかで、新議長・副議長の現状の受け止めと、新たに取り組みたいことなどございましたらお教えください。まず、議長からお願いします。

(議長)

はい。私ども愛媛県議会におきましては、議会基本条例に、県民に開かれた議会の実現を規定しており、歴代の議長のもと、様々な取り組みを行ってきたところです。

特にここ数年、議会から県民に向けての発信の強化に力を入れて取り組んでおり、自分自身副議長の時、議会改革検討協議会の座長の際に取り組ませていただいた、CATVやYouTubeでの議会広報番組の放送開始や、議会ホームページの全面リニューアル、こういったものの成果を上げようと一生懸命取り組んでいるところです。私自身は、これからまた開かれた議会への実現に向け、アプローチの仕方を考えていきたいと思っています。「議会から県民へ」に「県民を議会へ」ということにしていきたいと思っています。

また、先ほどおっしゃっていただいた親子傍聴室の設置などに引き続き、県民の議会へのアクセシビリティといいますか、近づきやすさとか、利用のしやすさとか、便利であること、こういったことを高める取り組みを強化していきたい、そしてより開かれた県議会の実現を目指していきたいというふうに思っています。

自分が感じているのは、物理的や心理的な様々な障壁があり、県議会にはなかなか参画しにくいと感じておられる県民の方々も多いのではないかなと思っています。こういった障壁、バリアを少しでも除去していきたい、そして県議会の広い意味でのバリアフリー化を推進し、より皆さんが参画しやすくなるような、そういった開かれた議会を実現していければと、高い理想を掲げて、頑張りたいと思っています。

これらの具体的な取り組み内容については、引き続き、議会改革検討協議会において大西副議長を中心に協議・検討していただこうと考えています。

また、三宅前議長のもと、6年度から主権者教育に注力して取り組んでいただいております。主権者教育については、1回実施したから終わりということではなく、長期にわたって継続的に実施することが大切ではないかと思っています。引き続いて、全力で取り組んでいこうと考えております。

それともう1点、我々県議会議員の任期も、折り返し地点である2年を迎えるということで、令和9年4月に、県議会議員選挙を控えております。4年前と同様に、次の6月定例会において、議員の定数について、定数等調査特別委員会を設置して議員定数等について様々な観点から検討に着手できればと考えておりますので、こういったところを考えながら、議会運営をしっかりとやっていきたい、そんな思いでございます。

以上です。

(南海放送：幹事社)

ありがとうございました。続いて、大西副議長からお願いします。

(副議長)

はい、私も県民に開かれた議会は非常に重要だと認識しております。愛媛県議会とし

ましては、従来から県民向けの情報発信を強化し続けてきたというふうに思っておりますが、先ほど議長が言われましたように、これからもより一層情報の発信を強化していくことが重要と考えております。具体的な議会の方針は、今後、議会改革検討協議会で協議していくということですが、協議会の座長は副議長が務めますので、協議会で十分に議論を行いまして、県民がより一層、県議会を身近に感じていただけますように、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

（南海放送：幹事社）

ありがとうございます。ただいまのお答えにつきまして質問のある社はよろしくお願いいいたします。

（南海放送：幹事社）

これまでCATVさんやYouTubeさんでいろいろ新たに試みられていると思うんですけど、その成果といいますか、どれぐらい成果が上がっているか。

（議長）

はい。数値化できるものではないと思っておりますが、私自身の肌感覚としては、県民の方々が県議会はこういうことやっているんだっていう、認知度が少し上がってきたような気がいたします。

また、生活に即したいろいろな事項が、県民の方々に伝わるようになってきたと思いますが、まだまだ不十分だと思っておりますので、これからも続けていき、こういう自分の生活にとって必要なことをここで議論しているんだということが分かっていただけるように、引き続き発信をしていきたいと思っております。

（愛媛新聞社）

先ほど定数の関係の意見がありましたけれども、これから議論が始まることにはなると思うんですけれども、現状ですね、定数のあり方ですとか、そのあたり議長の現時点での考えを改めて伺いしてもよろしいでしょうか。

（議長）

はい。これは、令和7年度の国勢調査がまだ出てないので、人口動態が分からない状況なのでなんとも言えませんが、やっぱり人口が減少している状況で、定数自体はどうあるべきかということはやっていかなければいけないと思っております。ただ、前は豪雨災害があって、やっぱり政治案件がかなり大きいと、だから定数だけで図れるものではなく、その時の政治的な案件がある場合は、政治力が必要ですから、そういった場合は定数を据え置く必要もあるのかなというふうに思っております。国勢調査があっての人口動態を見つつ、また政治案件、今もいろんな案件がございますので。そしてまた、東中南予のいろんなバランスも考えながら、これは議長だけの判断ではなく、いろんな地域の方々の声を聞いて、その上で判断していかねばならないと思っておりますので、これからの議論ということになるかと思っておりますけれども、しっかり精査して、とらまえて判断をしていくというようなことになると思います。

(愛媛新聞社)

大西副議長が検討会座長ということになると思いますけれども、この改めてどういふふうに検討を進めていかれたいか、その辺のお考えをお聞かせいただきたい。

(副議長)

はい。これ今、議長がおっしゃいましたように、国勢調査の結果も踏まえなければならない。そして、議員定数等調査特別委員会のほうで検討するに当たりまして、国勢調査の結果と、あと地方議会のほうは県議会議員というのはやはり、市町、地域代表ということでもございますので、それぞれの地域の声をしっかりと聞いて、経済を反映させていくという。考えましたら、人口も大事ですけども、やはり県下 20 市町代表ということで、地域性、やはり南予は非常に面積も大きく、街と街の間が非常に遠いということで、人口だけで割り振れるものではないのではないかという考えもありますので、議員定数等調査特別委員会のメンバーで十分に議論する前にも各自勉強をしていただきまして、どうやったらそれぞれの地域の声をしっかりと県政に反映していけるのかということ、メンバー全員で十分に議論していきたいと思っております。

※副議長が座長を務める議会改革検討協議会は、議員定数等調査特別委員会とは別の会であることを説明し、訂正しました。

(愛媛新聞社)

続いて、現在の県政についての課題というのはどのように捉えて、そこにどのようにアプローチしていきたいか議長・副議長それぞれお考えをお聞かせいただけたらと思います。

(議長)

はい。これは今議会でもそうでしたけれども、4つの重点分野があって、やっぱり人口減少対策、そして今進展している DX 関連、これをどう進めていくのかということもございまして、豪雨災害がありましたけれども防災減災対策、そして今一番やっていかなければいけない地域経済の活性化、この4分野を知事が常に訴えられておりますけれども、私たち議会としてもこの4分野を中心に進めていく必要があるかと思っております。なかでも、今回の親子傍聴室に象徴されるように、人口減少対策が最も重要ではないかなと思っております。

これに対する様々な施策を、スピード感を持っていかに行っていくのか、これはもう待ったなしのことになるかと思っておりますので、今すぐ頑張ってやっても効果が出るのは 20 年後、30 年後ということで、海外からの人材を引っ張ってくることも含め、そして結婚支援も含め、様々なあらゆる政策が必要かと思っておりますけれども、これはスピード感を持ってすぐに実施していく、そういった動きが必要じゃないかなと思っております。非常に多岐にわたりますので、一つひとつ申し上げることはできませんけれども、これは県民の声もしっかり聞きながらなるべく早く頑張っていきたいという思いでございます。

以上です。

(愛媛新聞社)

大西副議長、お願いします。

(副議長)

はい。先ほど議長が言いましたように、愛媛県政、大きな4つの柱、そのなかでもやはり人口減少対策、地域の活性化が特に重要だと認識しております。中村知事のリーダーシップのもと、今非常にインバウンドが飛躍的に日々進展してございますが、他地域との競争ということを考えますと、やはり地域間競争ということで、国内の流域人口の交流というのもこれからは図っていくべきではないかなと。そして国内の地域間競争にしっかり愛媛が勝ち抜いていく、こういった施策も併せて、ご提案なり推進をしていきたいと思っております。

以上です。

(愛媛新聞社)

ありがとうございます。

(南海放送：幹事社)

代表質問以外でも構いませんので質問のある社はお願いします。

(愛媛新聞社)

昨日、政務活動費の高松高裁の判決が出たかと思うんですけれども、政務活動費の透明性の確保に向けて、どのように取り組んでいかれるか、その辺りの考えをお聞かせいただいてもよろしいでしょうか。

(議長)

はい、昨日の判決は前回の判決に比べると、県側の主張が大きく認められているような判決になったかと思えます。

我々としては、大枠が認められたということで、認められてありがたかったような気持ちもございますけれども、一部は認められなかったということで、平成30年度以前のことで、その時と現在はちょっとマニュアル自体も変化してきているのかなと。マニュアルに沿ってやっているわけですが、それ自体も少し変化してきているのかなという気もいたしております。一人一人が、そういったものも気を付けながら、説明責任を十分に果たしていけるかどうか、その自覚が必要かと思っておりますので、マニュアル自体も適宜改正をしていくということも必要ですし、私、去年、改革協でやらせていただきましたけれども、領収書をホームページで公開するというようなことも決定してきたところです。そういったところをしっかりと出しても問題ないという部分を、議員一人一人が自覚をしてやっていくということが必要なんじゃないかと思うので、あり方が大分変わってきているなという気もいたしますが、これらの見直しを随時やっていくという必要があるかと思っております。

(南海放送：幹事社)

時間も迫ってまいりました、いかがでしょうか。

以上で正副議長会見を終わります。ありがとうございました。

※議事録については、読みやすさや分かりやすさを考慮し、発言の趣旨等を損なわない程度に整理しています。